



人に喜ばれることをすることは、 自分もまた喜びを分かち合える 幸せなこと

子育ての孤立化に伴い、子育て世代の負担感が増す中、ファミサポへのニーズが高まり、地域社会の手助けが追いつかない状況が生じています。『困ったときはおたがいさま』のあたたかい気持ちをもって、誰もが快く力を出し合い、支え合う社会となるように・・・。

長年、常にあたたかいまなざしで、子どもと親に寄り添う保育を実践されてきた野町文枝さんに、ファミサポの活動を志す方へエールをいただきました。

高松市屋島ファミリーホーム

施設長 野町 文枝 氏

花ノ宮保育園元園長。長年、高松市の保育事業の発展に貢献され、現在は高松市屋島ファミリーホーム施設長として、母子の生活支援のために尽力されている。



今、1番大切なのはちょっと休ませてくれる、安心して甘えられる、そんな人との繋がりで。寄り添ってくれる人の存在は力になります。

まかせて会員さんの1つ1つの活動は、目の前の保育にばかり視点が置かれますが、それだけではない意味のある活動です。1人の大人が信念をもって他の方の子どもと向き合っている姿、そして、できる形で周りの人を助けようとする行為を子ども達は見ています。心の引き出しを増やし、大人になったときに生かされていきます。子どもに生き方を伝える大人が子どもの周りにはいることは、次世代のお父さん、お母さんを育てることに繋がっているのです。

今、ボランティアをする人手が足りないと聞きますが、人に喜ばれることをすることは、自分もまた喜びを分かち合える幸せなことです。**できる人ができることを、できるときにみんなですていく。10のことを1人がするのではなく、10人が1つずつ、ほんの少しずつからでもやっていく。**そういうことが積み上げられていくことで、子ども達の環境も地域も、もっと良くなっていくと思います。ファミサポの活動は、社会へ大きなエネルギーを送ることに繋がっています。だからこそ、エールを送りたいと思います。



できるときに
できることを
気持ちよく

共感を大切に、ママ・パパを応援！

まかせて会員 濱崎 実由紀さん

四国で初めて育休を取得し、7ヶ月の息子を保育所に入れて働きましたが、私が子育てした時代は学童保育なども未整備だったので、仕事と育児の両立にとっても苦労しました。「自分の子育ての時にファミサポがあれば、是非利用したかった！」それが活動の原点です。

お子さんの成長を親御さんと一緒に喜んだり、赤ちゃんとの生活中心で、大人同士で話をする機会が少ないママの話をもじっくり聞いたり。自分の経験をもとに今の私だから出来ることで、お役に立てていることが嬉しいです。

サポートは引越や幼稚園・小学校への入学などいろいろな事情で終わりますが、年賀状をいただいたり、お子さんの誕生日や入学式の写真をメールで送ってくださったり、一期一会を実感しています。

かわいい子どもたちに、たくさん癒され、元気をもらいながら活動を続けていきたいです。



温かい
助け合いの気持ちが
繋がっています

大好きな子どもと過ごす幸せ！

まかせて会員 真鍋 京子さん



子どもが大好きなので以前からお子さんに関わることをしたいと思っていました。ファミサポの仕組みを通じて、たくさんのお子さんや親御さんと出会い、関わっていることに幸せを感じながら楽しく活動をしています。

援助活動は月に数回だけという時もありますが、親御さんの体調が悪い時や、どうしても用事がある時にお声をかけていただくので、自分がその場に行くだけで「本当に助かります」とおっしゃっていただける、必要とされていることがストレートにわかりやすいので、やりがいと喜びを感じます。

気をつけているのはお子さんを安全に見守ることと、時間を守ること。今、子育てされている親御さんたちが勉強したりお仕事をしたり、自分はこうしたい！と思うことを子育てをしながらも叶えられるように、これからも支援していきたいです。